

図書館だより

泗水図書館 ☎ 0968 (38) 6866
中央公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1672
七城公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1580
旭志公民館図書室 ☎ 0968 (37) 3111
内線 303

閉館日・閉室日

泗水図書館 月曜日・月末・祝日
中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日
七城公民館図書室 日曜日・祝日
旭志公民館図書室 日曜日・祝日

菊池市図書館ホームページ <http://www.kikuchi-lib.jp/>

司書のつぶやき
久しぶりのしおり作り…
みんな来てくれるかな～
ごぼう



新着・お薦め図書

泗水図書館

シャバはつらいよ
炎を薙ぐ
それは秘密の
アルグン川の右岸
死の棘・アスベスト
大人の探検 古墳
給食室のはるちゃん先生
クリスティーナとおおきなほこ

大野更紗 著
池永 陽 著
乃南アサ 著
遅子建 著
加藤正文 著
大塚初重 監修
光丘真理 文
ドリッ・バーン 絵

中央公民館

ポジティブの教科書
一生作り続けたいおかず
孫と一緒に遊ぼう!! ワンカット折り紙
星間商事株式会社社史編集室
迷宮捜査
時計がわかる本
あなたのママはね

武田双雲 著
田中怜子 著
伊藤信太郎 著
三浦しをん 著
緒川 裕 著
矢玉四郎 著
ケリー・ベネット 文

七城公民館図書室

ラストレター
四人組がいた。
どんぐりむらのほんやさん
かぜのでんわ

さだまさし 著
高村 薫 著
なかやみわ 作
いもとようこ 作絵

旭志公民館図書室

黒い羽
子どもにウケるたのしい雑学
かがみのなか
おはようジャッキー

菅田哲也 著
坪内忠太 著
恩田 陸 作
あいはらひろゆき 文

としょかんまつり

～ページをめくれば広がる世界～

と き 11月22日(土) 午前10時～
ところ 泗水図書館

おはなし会、講演会、各種企画・展示、リサイクル
図書無料配布ほか、楽しい催し物満載です!

スペシャルトーク! 午後1時30分～3時

坂口恭平さん来館!

「0円ハウス」『幻年時代』『徘徊タクシー』で話題の作家、坂口恭平さんをお招きします。どんな話が聞けるかお楽しみに!



前夜祭もあるよ!

きいて・み・NIGHT!
～第1回利き本クラブ～

と き 11月21日(金) 午後6時30分～

皆さんぜひお越しください。詳しくは館内チラシ
またはホームページをご覧ください。

本好きの人
集まれ～!

耳より情報

旭志公民館図書室で職場体験

旭志公民館で職場体験が行われました。旭志中学校3年生の小倉衣央さんと松永侑希音さんに、図書室でお勧めの本を選んでもらい、本のポップを作ってもらいました。

とてもかわいい「おススメ本コーナー」が出来上がりました。ぜひ2人が選んだ本を借りに来てください!



小倉さん◎と松永さん◎

たくさんの本と
ふれあえて楽し
かったです。
皆さんもたくさ
ん本を読みまし
ょう。

いろんな種類の本
があって、その中
でも「うんち」の
本がかわいかった
です。ぜひ図書室
に来てください。

万句の里俳句会 9月例会
八朔の祭りを見んと急ぎけり 宮本 敏子
雨音の隙間すきまにほととぎす 田中 美智
独り居の吾に聞かすやちろ鳴く 丸山美代子
葬列を見送くつてゐる蜻蛉かな 岩木 敬治
現し世を照らして余る月今宵 隈部 輝子
せせらぎ俳句会 9月例会
百年を生きて悔なき虫の夜 村山 数恵
生老病死深夜のラジオ九月尽 藤本 邦治
白萩の揺れてはらりと孫の背に 寺本 和子
合言葉あるか頭突きつ蟻の道 服部 静子
咲き揃ひ棚田縁どる彼岸花 藤本アツ子
旭志文芸教室俳句の会9月詠草
草刈りを終へし木陰や風わたる 中尾ヨシコ
蠅逝く育てし茄子の二つ三つ 芹川 蓉子
転がせば青栗坂のつくるまで 水谷 ミネ

霧雨に草取り止めるほどもなし 芹川のり子
肥後狂句桜会 9月例会
無駄な事ッ タライ回しのお中元 上村 ○子
そしてから 大穴ばかり狙うどる 小川 繁美
面憎さ 挨拶さしたことが無ア 狩野 本六
審査員 歌手はとめて笑わした 窪田 明徳
油断は禁物 ノーヒットでも四ノ番 田中 孝幸
ぞ
肥後狂句水笑会 9月例会
不思議 錦織圭の強かつが 御手洗三代
新米が 大風呂敷ば広げとる 続 義昭
新米が 古古来よりも安うなり 井手 水光
雨ばかり いさぎもうるランドリ 宮上 美由
新米が 客に値段は聞きよらす 山隈 好茶
七城短歌会 9月詠草
今宵また玻璃窓に這いつくやモリな 嶋田 晴美
り肢に円けき吸盤覗かせ

田の往き来我をかこみし秋あかね 今日はこの雨いづくにしのぐ 高木 精
敬老の日子が連れ来たる孫たちに祝いを添えて花を貰いぬ 池田カツ子
蝉の声いつしら消えし夕庭のいづくか 蟬聲途切れとぎれ鳴く 木下 陽子
朝の日に向かい畦草刈りてゆく稲葉を宿なす露玉ひかる 佐々 重弘
「里」短歌会 9月詠草
秋の雲なごりの雲のゆきあいて知覧の遺影の声のなきこえ 坂本 玲子
わが里の鞍岳山に晴れ晴れと朱金の名月顔を出したり 川口 敦子
招かれし敬老会にパワー受く友らの所作にこころ打たれて 松本 幾代
酷い日に悲鳴上げしが日の落ちて闇の虫の音秋はたしかに 岩本サヨ子
いただきし園児の祖母の手作りの栗の団子は秋の初物 緒方 悦子
菊池短歌会 10月詠草
七十で敬老会の仲間入り面映く座る祝ひの膳に 林 まつ子



秋晴れの連山蒼く鎮まりて遠くに白き風車が並ぶ 岩永 典子
鷺十羽稲田の上を群舞せり豊かな稔り寿ぐがごと 古賀 勝士
淡藤色の花好もしく百日紅上枝に秋風遊ばせながら 中川 愛子
秋茄子の幾つ下れる菜畑もこぼれコスモス咲きて花園 中原え子

